

(1) 三井埠頭から乗船の一行

## 横濱港と鶴見工業港の視察

### 土木學會主催

土木學會が先月新潟學會を催し、今月又も京濱工業港を見學すると云ふ矢張り早の催しに舊い會員はあつげにとられながら参加する有様。新會員は非常な勉強ぶりだと言ふものもある。然し遠方に出掛けられなかつた會員は近くで半日の視察をして然も京濱工業港地帯の發展ぶりを大體認識して、今更ら其の重要性に驚いた人もあつた様だ。

×

七月七日午後土木學會員百餘名は鶴見海岸近くの鶴見俱樂部に集合した、那波前會長や米元副會長など早くからつめかけた人も十數名あつた。倶楽部の廣間で一同ビール・サイダー、ケーキ菓物其他の御馳走になりながら先づ内務省横濱土木出張所長木津正治氏の川崎市から横濱港に至る海岸工業設備の總括的講演を聞き、次に東京灣埋立株式会社取締役關發氏の講演があつた。關氏は故淺野總一郎氏が鶴見海岸埋立の創業時代よりの技術的關係者にして、其説明も故人淺野氏から説起し、淺野氏が直情蕙行の人物であつたから、廻りくどい仕事が嫌いで船の荷役を直接にしたいと云ふ希望と、廢物に等しい海岸の砂を利用して埋立地を造る事に着眼したのに始まると、淺野氏の慧眼を讃へ今や廣汎百八十萬坪の埋立地に、一大工業港として設備完成し爰に三億圓の投資を見、年々40萬噸の荷役をなしつつある。とて此工業港の特徴と發展ぶりを簡単に述べ。

次いで横濱市土木局長永田兵三郎氏は、横濱市が子安海岸に埋立た面積六十二萬坪、工費千五百萬圓の工事に就て説明し、其埋立地が完成する片端より賣約成立してすでに工業設備の盛んに進捗しつつあるを述べ、之は主として單價が安い事(坪四十圓)

十年賦拂いの事

工業設備に條件を附せぬ事

等が喜ばれる爲とあるが、實際は港灣設備が良い爲であらう。

×

關東大震災の大災害をうけた横濱市が疲弊のドン底から此大工事を企てた決斷力は正に時勢に的中したものである。横濱市は此等を意味して全市復興の完成を記念し、明昭和十年海岸の山下公園に大博覧會を開備する由である。

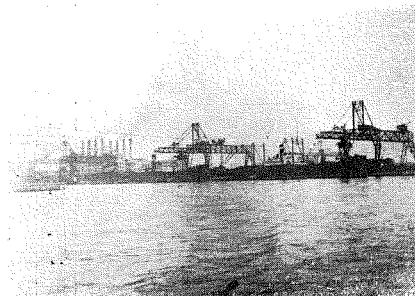
次いで内務省横濱土木出張所の鮫島技師は横濱港の修築工事に就て其特色の一部をスピード講演をなし、

次いで土木學會を代表して米元副會長は内務省横濱土木出張所、横濱市役所、神奈川縣土木部、東京灣埋立會社、三井物産川崎埠頭事務所、日滿倉庫川崎埠頭事務所大倉土木株式會社鶴見臨港鐵道會社等に對し本日の好意に對し謝辭を述べ、一同拍手裡に俱樂部を出で、再び臨港鐵道電車にて海岸の三井埠頭に至り、三艘のランチに分乘して愈々海上視察に向つた。

×

我々の汽艇は京濱運河の一部たる防波堤内に出た可成り廣々としてゐる。第一に日滿倉庫埠頭に艇首を近づける。昨年竣工したばかりの埠頭工事としては近年出色の設計と施工になつたもので、第一眼につくのは空高く聳ゆるブリツヂ・トランスポーターの設備である。滿鐵からの石炭積卸しに用ゆる大機構である。

然し其の下のソフトブリツヂのスマートな型を見ると、直ぐにあの日本最初の全銲接可動橋だと知られる。尙其の下の海水に漱く現はれてゐるコンクリートの橋脚こそ、鐵筋コンクリートの圓筒構から出来てゐるのだ滿鐵の小柳技師が主任で、大倉土木會



(2) 三井埠頭トランスポーター

社が施工した新鋭工事である事は既に昨年来の工事  
畫報誌上に詳報した處である。

艇首はやがて横濱港方面に向けられ、右岸に聳ゆる  
三井埠頭のブリツヂ・トランスポーターの偉容も  
満鐵のそれに劣らぬものだ三井埠頭の護岸にはシー  
ト・パイルが使用されてゐる。施工當事の種々な苦心  
と困難も忘れた様にキレイに列入である處は見事  
なものだ。その三井埠頭の奥に鐵道省の發電所が高く  
聳へて見える。火力發電所としては最も經濟的な  
動力を供給してゐるのも一に此の工業地域を利用し  
てゐる御蔭である。

×

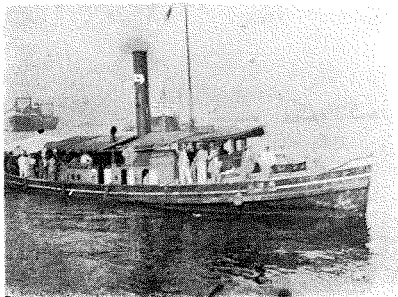
艇が南へ進むに隨い海岸の石油タンクや製粉工場  
の特種設備などが見えて来る、相憎雷雨がやつて來  
て視界を妨げるが、運河の中であるから大した事も  
ない。艇中には汚の爲にビールや菓物を出されてゐ  
る。

順次右岸には淺野造船所や神奈川縣營の埋立地な  
どが見えて来る。あんまり右岸ばかり見てゐたので  
左側の防波堤外に設けられてゐる有名な扇島海水浴  
場を見逃してしまつた。扇島海水浴場は鶴見臨港鐵  
道會社が經營してゐる東京近くでは最も汚れてゐな  
い先づキレイな海水浴場である。

×

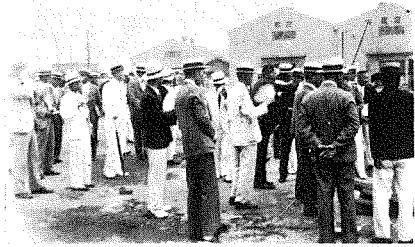
神奈川縣營の埋立地は鶴見川口の左岸にある。三  
十萬坪程あるそうだが、その埋立工事費は殆んど無  
代で出來たとか云ふので有名である。それは請負業  
者にサンドポンプで埋立させた代償として埋立地の  
一部を與へたとの事である。本津所長は之をヤラズ・  
ブツタクリの工事法だと紹介されてゐた。

鶴見川をはさんで相對する横濱市營の埋立地六十  
萬坪はすでに工場地として盛んに利用され様として  
ゐる。其所には松方日ソ石油のタンクなど銀色にズ  
ラリ輝いてゐる。



(3) 横濱港内視察中の一行

(4) 内國用埠頭上屋前の一行



此邊で左の方を見れば横濱港の外防波堤工事が處  
々見える。之も特種コンクリートケーソンを特種の  
工法で据付中である。從來のプロック沈没などは既  
に舊世紀の防波堤工法の様にも思はれる。

横濱港の目下工事の岸壁や防波堤は何れも其ケ  
所と條件に應ずる特種のコンクリート・ケーソン又  
はコンクリート・シリンドラーの構工をフロートを利用  
して現場に運び沈設されてゐる。これは從來の不  
完全なる水中工事を悉く陸上工事としてドック内で  
コンクリート部分を完全に施工し、而して之を特種  
フロートの利用により現場に洩航して沈設する方  
法である。此の新工法は實に内務省横濱土木出張所  
の一種の創案であつて、近代の海工事の一大革命とも  
云ふべきものである。我が工事畫報誌上にも度々詳  
報して讀者も充分御承知の事と思ふが、尙ほ一步進  
んで工事の實際を見學されたなら學び得る處多大な  
ものがあると思ふ。

×

一行の汽艇は横濱港内の山下町海岸に市營貯木場  
の視察を時間の都合で割愛して港内の新設外國貿易  
岸壁よりコンクリート・ケーソン製造中のドックを  
見學して、高島町の新設内國貿易岸壁に上陸した。  
其所の上屋兼倉庫内にて一行は鮫島技師の説明を聞  
き、バスにて横濱驛に至り今日の有益なる見學會を  
解散したのは午後五時であつた。(一記者)